



お知らせ

平成 25 年 6 月 11 日

同時資料提供先

合同庁舎記者クラブ、鳥取県政記者会、島根県政記者会、
岡山県政記者会、広島県政記者クラブ、山口県政記者クラブ、
山口県政記者会、山口県政滝町クラブ、中国地方建設記者クラブ

水生生物調査に延べ 2,134 名参加！

良好な水質状況をみんなで実感！

今年度も参加者を募集！！

～中国地方整備局 平成 24 年度 水生生物調査の実施結果について～

<水生生物調査とは？>

川底にどのような生物が住んでいるかを調べることで、その地点の比較的長い期間の水質の状態を簡易的に判定する、住民参加型の調査です。誰にでも簡単に水質状況が判定できるので、昭和 59 年から小・中学生、高校生を中心に、多くの方々に参加していただいています。水生生物調査は、河川と親しみながら調査をすることで、身近な存在である河川に対して、河川愛護、水質浄化等の関心を高めてもらうことを目的として実施しています。

<平成 24 年度実施状況>

中国地方の一級河川の 89 地点において、
**6 月から 11 月にかけて小・中学生、高校生を
中心に 77 団体、延べ 2,134 名の参加を得て実施
しました。**



水生生物の調査風景

<平成 24 年度調査結果>

水質を [I] きれいな水～ [IV] とてもきたない水の 4 つの階級に分けて取りまとめた結果、

[I] きれいな水および [II] ややきれいな (少しきたない) 水と評価された地点が全体の 99% となり、概ね良好な結果となりました。

きれいな水の生物 カワゲラ



きれいな水の生物 ヘビトンボ



国土交通省 中国地方整備局

○問い合わせ先

国土交通省中国地方整備局

電話番号 (082) 221-9231 (代表)

(担当) 河川部 流域・水防調整官 うえはし のぼる 上橋 昇 (内線 3518)

(担当) 河川部 建設専門官 みぞて そうじ 溝手 宗二 (内線 3758)

(広報担当窓口) 総務部 広報広聴対策官 さかもと しげゆき 坂本 繁幸 (内線 2117)

企画部 環境調整官 えすみ ただなり 江角 忠也 (内線 3114)

※全国水生生物調査に参加を希望される場合のお問い合わせ先

平成 25 年度も地域の方々の参加を得て全国水生生物調査を実施します。調査への参加を希望される方は以下のお問い合わせ先までご連絡下さい。

- 中国地方整備局の窓口（一級河川直轄管理区間）

事務所名	HP の URL	担当水系名	電話番号	担当部課名
鳥取河川国道事務所	http://www.cgr.mlit.go.jp/tottori/	千代川	0857-22-8435	河川管理課
倉吉河川国道事務所	http://www.cgr.mlit.go.jp/kurayoshi/	天神川	0858-26-6221	河川管理課
日野川河川事務所	http://www.cgr.mlit.go.jp/hinogawa/	日野川	0859-27-5484	調査設計課
出雲河川事務所	http://www.cgr.mlit.go.jp/izumokasen/	斐伊川	0853-21-1850	水質保全課
浜田河川国道事務所	http://www.cgr.mlit.go.jp/hamada/	江の川(島根県)、高津川	0855-22-2480	河川管理課
岡山河川事務所	http://www.cgr.mlit.go.jp/okakawa/	吉井川、旭川、高梁川	086-223-5101	防災情報課
福山河川国道事務所	http://www.cgr.mlit.go.jp/fukuyama/	芦田川	084-923-2620	調査設計第一課
三次河川国道事務所	http://www.cgr.mlit.go.jp/miyoshi/	江の川(広島県)	0824-63-4121	調査設計課
太田川河川事務所	http://www.cgr.mlit.go.jp/ootagawa/	太田川、小瀬川	082-221-2436	計画課
山口河川国道事務所	http://www.cgr.mlit.go.jp/yamaguchi/	佐波川	0835-22-1785	河川管理課
中国地方整備局 (河川部)	http://www.cgr.mlit.go.jp/cginfo/syokai/busyo/kasen/index.htm		082-221-9231	河川部 水災害予報センター

- 各都道府県の環境部局 (<http://www.env.go.jp/kids/water.html>)

平成24年度

水生生物による水質の簡易調査の実施結果

中国地方整備局

調査風景－1

千代川水系 千代川 さぬき 佐貫地点（鳥取県）



天神川水系 天神川 こだばし 小田橋 橋下（鳥取県）



日野川水系 日野川 くずもげき 車尾堰地点（鳥取県）



斐伊川水系 神戸川 まきおおはし 馬木大橋地点（島根県）



高津川水系 高津川 かんだ 神田地点（島根県）



江の川水系 江の川 つがほんごう 都賀本郷地点（島根県）



調査風景-2

旭川水系 旭川 ^{しんおおはらばし} 新大原橋地点 (岡山県)



高梁川水系 高梁川 ^{たたいぜき} 湛井堰地点 (岡山県)



吉井川水系 吉井川 ^{わけばし} 和気橋地点 (岡山県)



太田川水系 太田川 ^{おたがわばし} 太田川橋地点 (広島県)

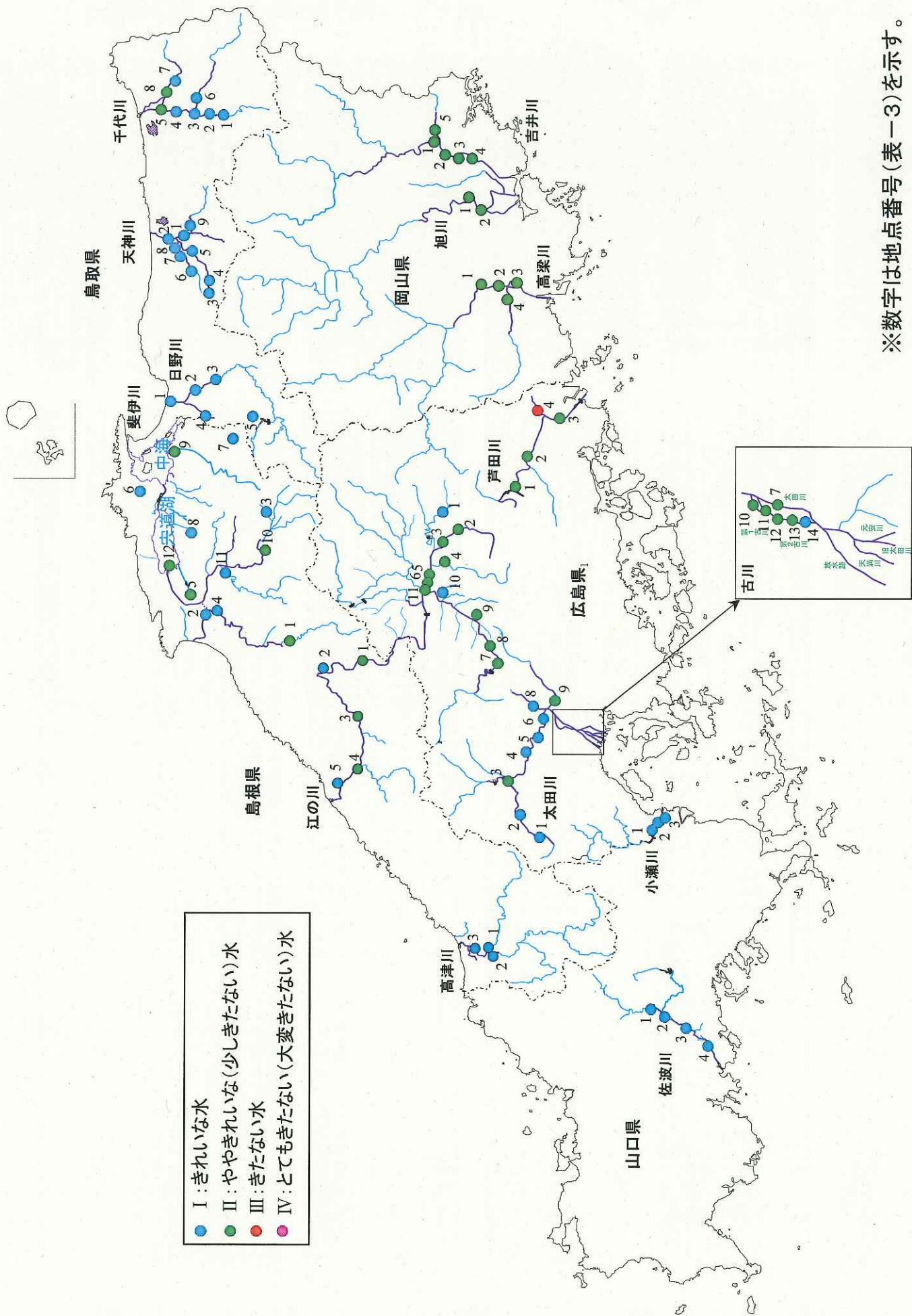


小瀬川水系 小瀬川 ^{おがわづ} 小川津地点 (山口県)



佐波川水系 佐波川 ^{しんばし} 新橋地点 (山口県)





- I: きれいな水
- II: ややきれいな(少しきたない)水
- III: きたない水
- IV: とてもきたない(大変きたない)水

※数字は地点番号(表一3)を示す。

調査地点概要図(中国地方整備局)

1. 調査の目的

河川の中にはさまざまな生物が生息していますが、特に川底に生息する生物（水生生物）は、過去から調査時点までの長期間の水質状況を反映した結果でもあります。

このため、どのような生物が生息しているかを調べることによって、その地点の比較的長い期間の水質の状態を知ることができます。

国土交通省と環境省では、それぞれ昭和59年から「水生生物による水質の簡易調査」（以下「水生生物調査」という）をはじめています。

水生生物調査は、誰にでも簡単に水質状況が判定できるので、小・中学生、高校生を中心に、多くの方々に参加していただき、河川と親しみながら、河川の水質状況を把握し、水質保全施策の基礎資料を得るとともに、調査を通じて私達の身近な存在である河川に対して、河川愛護、水質浄化等の関心を高めてもらうことを目的として実施しています。

2. 参加者数と調査地点数

小・中学生を中心に、77団体、延べ2,134名の参加を得て、中国地方一級河川の89地点で実施。

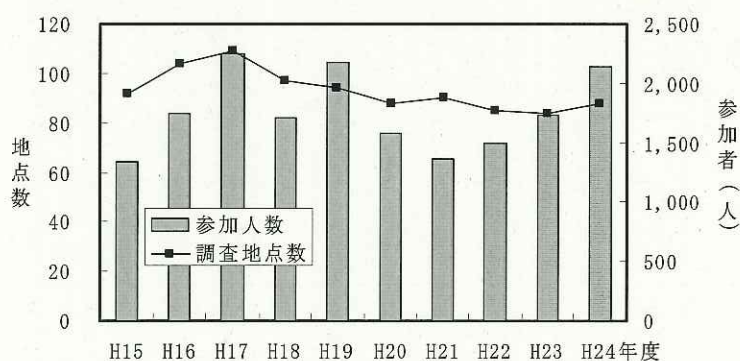


図-1 参加者数と調査地点数

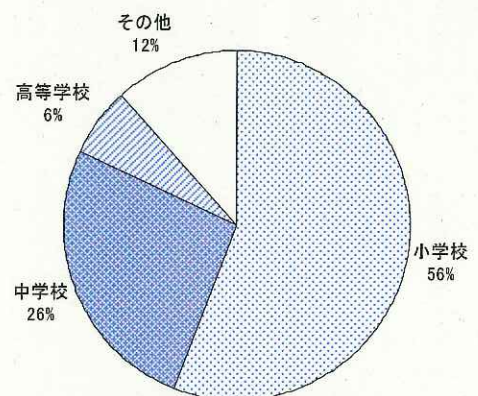


図-2 平成24年度 調査参加団体構成比

平成24年度の調査は、中国地方の一級河川の89地点において、6月から11月にかけて、77団体、延べ2,134人の参加を得て実施しました（P.7 表-2参照）。

平成23年度に比べ参加人数が402人増加し、多くの子供達に調査をしていただいたことで大変貴重なデータを得ることができました。

子供達にとっても、水に親しみながら調査をしたことで”きれいな川”に対するより具体的なイメージを持って頂く機会になったと思います。

3. 調査の方法

この調査は、環境省水・大気環境局、国土交通省水管理・国土保全局編「川の生きものを調べよう～水生生物による水質判定～」を基に、川底に生息する水生生物を採取し、表-1に示す『水のきれいさ』の指標となっている生物の種類数と個体数により、川の水質状況を判定するものです。

表-1 水のきれいさの程度（階級）とその指標となる生物

I：きれいな水の生物		II：ややきれいな(少しきたない)水の生物	
ナミウズムシ	ナガレトビケラ類	カワニナ類	ヒラタドロムシ類
サワガニ	ヤマトビケラ類	(スジエビ)	ゲンジホタル
ヒラタカゲロウ類	ブユ類	コオニヤンマ	※ヤマトシジミ
カワゲラ類	アミカ類	コガタシマトビケラ類	※イシマキガイ
ヘビトンボ類	ヨコエビ類	オオシマトビケラ	
III：きたない水の生物		IV：とてもきたない(大変きたない)水の生物	
タニシ類	※イソコツブムシ	サカマキガイ	
シマイシビル	※ニホンドロソコエビ	エラミミズ	
ミズムシ		アメリカザリガニ	
(タイコウチ)		ユスリカ類	
ミズカマキリ		チョウバエ類	

※は汽水域の生物
()は旧指標の生物

・判定方法

水質階級の判定方法は、調査地点毎に出現した個体数の多かった指標生物2種類(ただし、3種類の指標生物についてはほぼ同じ個体数であった場合は、最大3種類)については2点、それ以外の指標生物については1点として点数をつける。

- ・各階級ごとに各指標生物の点数を合計する。
- ・点数のもっとも高い階級をその地点の水質階級と判定する。
- ・ただし、複数の階級について同点がある場合には、水質の良い階級をその地点の階級とする。例えば、階級Iと階級IIが同点の場合は階級Iとする。

4. 調査結果概要

水質階級 [I]、[II] と判定された地点が全体の 99%

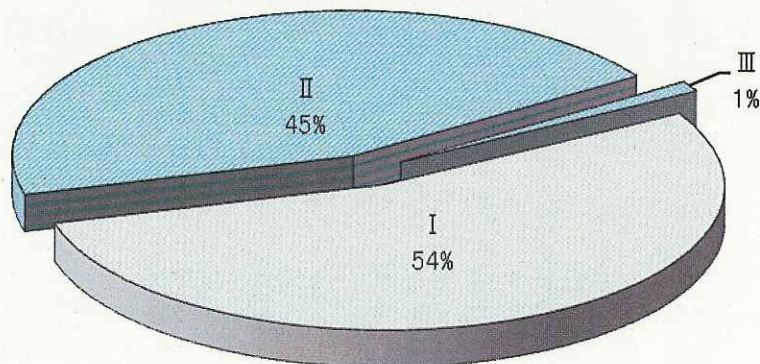


図-3 平成24年度 水質階級構成比

水生生物からみた中国地方一級河川の水質状況は、一級水系調査地点89地点のうち、「I：きれいな水」が48地点、「II：ややきれいな水（少しきたない水）」が40地点、「III：きたない水」が1地点、「IV：とてもきたない水（大変きたない水）」はありませんでした。この結果、[I]、[II]と判定された地点が全体の99%となり、中国地方の一級河川は良好な状態を保っています。

中国地方一級河川の良好な状態を保つため、今後も生活排水などの川の水質に影響を及ぼすものに対する一人一人の心掛けが必要です。

中国地方の一級河川の水質は、良好な状態を維持

図-4は、過去10年間の判定水質の階級比率の推移を表したものですが、階級IとIIを合わせた比率は毎年9割を超えており、中国地方の一級水系は、継続的に良好な水質を保っていると言えます。

(I：きれいな水、II：ややきれいな水（少しきたない水）、III：きたない水、IV：とてもきたない水（大変きたない水）)

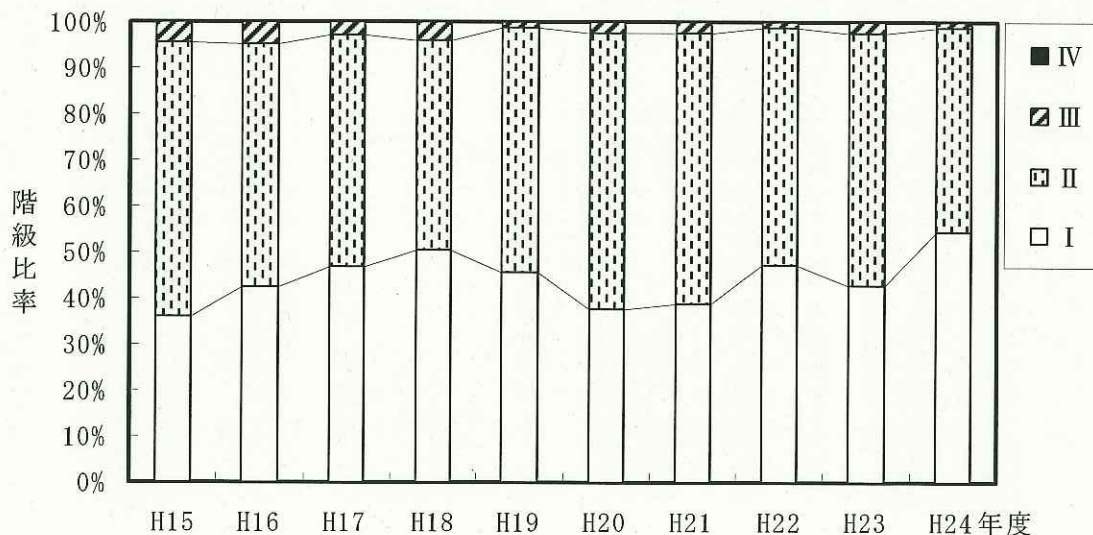


図-4 判定水質階級比率の推移

5. 河川別参加者、参加団体等集計

表-2 水生生物による水質の簡易調査「平成24年度実施結果」

県名	水系名	調査地点数 (地点)	参加人数 (人)	参加団体数 (団体)	判定水質階級 (地点)			
					I	II	III	IV
鳥取県	千代川	8	188	5	6	2		
	天神川	9	278	11	9			
	日野川	5	84	4	5			
島根県	斐伊川	12	332	11	7	5		
	江の川下流	5	142	6	2	3		
	高津川	3	62	2	3			
岡山県	吉井川	5	69	3		5		
	旭川	2	9	1		2		
	高梁川	4	34	2		4		
広島県	江の川上流	11	377	11	2	9		
	太田川	14	198	8	7	7		
	芦田川	4	46	4		3	1	
広島県・山口県	小瀬川	3	32	2	3			
山口県	佐波川	4	283	7	4			
合計		89	2,134	77	48	40	1	0
					54%	45%	1%	0%
前年 (平成23年)		84	1,732	60	36	46	2	0
					43%	55%	2%	0%

(水質階級 I:きれいな水 II:ややきれいな水(少しきたない水) III:きたない水
IV:とてもきたない水(大変きたない水))

【参加団体内訳】		
小学校	43団体	1,468人
中学校	20団体	353人
高等学校	5団体	106人
その他	9団体	207人

表-3 水生生物による水質の簡易調査「平成24年度実施結果」(鳥取県)

(水質階級 I:きれいな水 II:ややきれいな水(少しきたない水) III:きたない水 IV:とてもきたない水(大変きたない水))

水系名	河川名	地点番号	調査地点名	調査地点地名	調査月日	調査団体名等	参加人数	H24判定水質階級	備考
千代川	千代川	1	用瀬	鳥取市用瀬町用瀬(雑橋下流)	7月20日	鳥取市立用瀬小学校	33	I	鳥取河川国道事務所
	千代川	2	佐貫	鳥取市河原町佐貫(県道本鹿・高福線佐貫橋下流)	9月24日	鳥取市立散岐小学校	9	I	
	千代川	3	袋河原	鳥取市河原町袋河原(県道河原・郡家線出合橋直上流)	7月2日	鳥取市立河原第一小学校	37	I	
	千代川	4	源太	鳥取市源太(県道猪ノ子・国安線源太橋直上流)	8月29日	鳥取大学附属小学校	74	I	
	千代川	5	行徳	鳥取市古市(県道鳥取・鹿野・倉吉線千代大橋直上流)	8月30日			II	
	八東川	6	片山	鳥取市河原町今在家(市道徳吉・片山線今在家橋上流)	8月22日	直営	—	I	
	袋川	7	町屋	鳥取市国府町町屋(市道序1号線国府橋上流)	7月13日	鳥取市立宮ノ下小学校	35	I	
	袋川	8	大杵	鳥取市大杵(市道大杵橋線大杵橋下流)	8月22日	直営	—	II	
天神川	天神川	1	竹田橋 上流	鳥取県倉吉市竹田橋	8月9日	倉吉東学童クラブ 1・2年生	32	I	倉吉河川国道事務所
	天神川	2	小田橋 橋下	鳥取県倉吉市小田橋	9月13日	河北小学校 3年生	67	I	
	小鴨川	3	松河原大橋 橋下	鳥取県倉吉市 松河原大橋	9月24日	関金小学校 4年生	28	I	
	小鴨川	4	関金水辺の楽校	倉吉市関金町関金宿地先(佐野大橋右岸側下流)	8月3日	鴨川中学校 1年生、2年生	4	I	
	小鴨川	5	下大江親水護岸	鳥取県倉吉市下大江	10月10日	直営	—	I	
	国府川	6	高城水辺の楽校	倉吉市上福田地先(上福田橋左岸側下流)	7月6日	高城小学校 4年生	10	I	
	国府川	7	福光橋 下流	福光水位観測所付近	9月18日	社小学校 5年生	53	I	
	小鴨川	8	出口橋 橋下～下流	鳥取県倉吉市金森町地先	8月28日	明倫小学校 5年生	27	I	
	小鴨川		出口橋 橋下～下流	鳥取県倉吉市金森町地先	9月19日	倉吉農業高等学校 3年生	11		
	小鴨川		出口橋 橋下～下流	鳥取県倉吉市金森町地先	9月10日	成徳小学校 4年生	19		
	三徳川	9	大瀬水辺の楽校	東伯郡三朝町大瀬地先(加茂橋右岸側上流)	8月8日	三朝中学校 1・2年生	13	I	
三徳川	大瀬水辺の楽校		東伯郡三朝町大瀬地先(加茂橋右岸側上流)	7月26日	三朝西小学校 5・6年生	14			
日野川	日野川	1	草尾堰	鳥取県米子市上福原地先	8月2日	米子市こどもエコクラブ	20	I	日野川河川事務所
	日野川	2	伯耆橋	鳥取県西伯郡伯耆町吉定地先	7月26日	岸本小学校	44	I	
	日野川	3	鬼守橋	鳥取県西伯郡伯耆町溝口地先	7月30日	溝口小学校	16	I	
	法勝寺川	4	五ヶ堰下流	鳥取県西伯郡南部町馬場地先	7月31日	法勝寺中学校	4	I	
	秋原川	5	日南湖湖畔	鳥取県日野郡日南町中原地先	8月23日	直営	—	I	
22 地点			小学校 14 校			466人	I (20) 91%		
			中学校 3 校			21人			
			高校 1 校			11人			
			大学 0 校			0人			
			一般 2 団体			52人			
			計 20 団体			550人			
							II (2) 9%		
							III (0) 0%		
							IV (0) 0%		

表-3 水生生物による水質の簡易調査「平成24年度実施結果」(島根県)

(水質階級 I:きれいな水 II:ややきれいな水(少しきたない水) III:きたない水 IV:とてもきたない水(大変きたない水))

水系名	河川名	地点番号	調査地点名	調査地点地先名	調査月日	調査団体名等	参加人数	H24判定水質階級	備考
斐伊川	神戸川	1	志津見ダム上流	飯石郡飯南町八神	8月8日	志々小学校	29	II	出雲河川事務所
	神戸川	2	馬木大橋	出雲市馬木町馬木	8月31日	神戸川小学校	102	I	
	神戸川		馬木大橋	出雲市馬木町馬木	10月3日	来島小学校・赤名小学校	23		
	亀嵩川	3	公民館付近前田橋下流	奥出雲町 亀嵩	8月9日	亀嵩公民館	24	I	
	神戸川	4	朝山小付近	出雲市所原町	9月28日	朝山小学校	27	I	
	五右衛門川	5	西野小付近太才南橋下	出雲市斐川町西野	9月20日	西野小学校	32	II	
	朝酌川	6	虫野神社付近	松江市福原町	10月2日	朝酌小学校	18	I	
	小竹川	7	赤屋小付近	安来市伯太町赤屋	10月4日	井尻小学校	17	I	
	玉湯川	8	大谷小付近	松江市玉湯町大谷	10月25日	大谷小学校	12	I	
	飯梨川	9	赤江小付近飯梨橋下	安来市赤江町	10月31日	赤江小学校	48	II	
	斐伊川	10	温泉小学校上	雲南市木次町平田	11月30日	直営	-	II	
	三刀屋川	11	三刀屋大橋付近	雲南市三刀屋町三刀屋	11月30日	直営	-	I	
宍道湖	12	なぎさ公園	出雲市斐川町 中洲	11月30日	直営	-	II		
高津川	匹見川	1	横田	益田市神田町神田(横田橋上流左岸)	9月6日	西益田小学校	18	I	浜田河川国道事務所
	高津川	2	神田	益田市向横田町大滝(神田大橋上流左岸)	9月6日	西益田小学校	19	I	
	高津川	3	虫追	益田市向安富町川成(西益田大橋上流安富橋付近右岸)	8月6日	高津中学校	25	I	
江の川	江の川	1	都賀本郷	邑智郡美郷町長藤(道の駅グリーンロード大和付近)	7月30日	大和中学校	12	II	
	江の川	2	粕瀬	邑智郡美郷町浜原(浜原大橋下流右岸)	6月28日	邑智中学校	23	I	
	江の川	3	川本	邑智郡川本町上三島	9月14日	川本中学校	21	II	
	江の川	4	川戸	江津市桜江町川戸(桜江大橋上流左岸)	6月29日	桜江小学校	24	II	
江の川	川戸		江津市桜江町川戸(桜江大橋上流左岸)	7月2日	桜江中学校	18			
江の川	5	市村	江津市松川町市村(松川橋下流右岸)	6月26日	郷田小学校	44	I		
		20 地点			小学校	13 校	413人	I (12) 60% II (8) 40% III (0) 0% IV (0) 0%	
			中学校	5 校	99人				
			高校	0 校	0人				
			大学	0 校	0人				
			一般	1 団体	24人				
			計	19 団体	536人				

表-3 水生生物による水質の簡易調査「平成24年度実施結果」(岡山県)

(水質階級 I:きれいな水 II:ややきれいな水(少しきたない水) III:きたない水 IV:とてもきたない水(大変きたない水))

水系名	河川名	地点番号	調査地点名	調査地点地先名	調査月日	調査団体名等	参加人数	H24判定水質階級	備考
高梁川	高梁川	1	瀧井堰	岡山県総社市橋本地先	7月20日	総社市立総社西中学校	18	II	岡山河川事務所
	高梁川	2	川辺橋	岡山県倉敷市真備町川辺地先	7月24日	倉敷市立真備東中学校	16	II	
	高梁川	3	酒津	岡山県倉敷市酒津地先	7月17日	直営	-	II	
	小田川	4	福松橋	岡山県倉敷市真備町松尾地先	7月17日	直営	-	II	
吉井川	吉井川	1	和気橋	岡山県和気郡和気町田原下地先	8月1日	和気町立和気中学校	14	II	
	吉井川	2	熊山橋	岡山県赤磐市千棘地先	7月31日	赤磐市立磐梨中学校	9	II	
	吉井川	3	弓削橋	岡山県岡山市瀬戸町二日市地先	7月19日	直営	-	II	
	吉井川	4	備前大橋	岡山県瀬戸内市長船町福岡地先	7月19日	直営	-	II	
	金剛川	5	宮橋	岡山県和気郡和気町尺所地先	7月9日	和気町立本荘小学校	46	II	
旭川	旭川	1	新大原橋	岡山県岡山市幸佐地先	7月25日	岡山市立高島中学校	9	II	
	旭川	2	三野	岡山県岡山市三野地先	7月19日	直営	-	II	
		11 地点				小学校 1校	46人		
						中学校 5校	66人	I (0)	0%
						高校 0校	0人	II (11)	100%
						大学 0校	0人	III (0)	0%
						一般 0団体	0人	IV (0)	0%
						計 6 団体	112人		

表一 3 水生生物による水質の簡易調査「平成24年度実施結果」(広島県)

(水質階級 I:きれいな水 II:ややきれいな水(少しきたくない水) III:きたくない水 IV:とてもきたくない水(大変きたくない水))

水系名	河川名	地点番号	調査地点名	調査地点地先名	調査月日	調査団体名等	参加人数	H24判定水質階級	備考
江の川	上下川	1	高橋上流	広島県三次市甲奴町梶田	6月29日	三次市立甲奴小学校	23	I	三次河川国道事務所
	戸張川	2	和田橋上流	広島県三次市吉舎町丸田	7月19日	三次市立八幡小学校	9	II	
	馬洗川	3	久松橋上流	広島県三次市三良坂町三良坂	6月27日	三次市立三良坂小学校	19	II	
	美波羅川	4	大滝橋下流	広島県三次市大田幸町	9月13日	三次市立田幸小学校	13	II	
	馬洗川	5	八次河川敷	広島県三次市島敷町	7月17日	三次市立八次小学校	88	II	
	馬洗川	6	十日市親水公園	広島県三次市十日市町	6月26日	三次市立十日市小学校	121	II	
	江の川	7	桂水辺の楽校	広島県安芸高田市吉田町桂	7月11日	安芸高田市立郷野小学校	10	II	
	江の川	8	可愛橋下流	広島県安芸高田市吉田町川本	10月2日	安芸高田市立可愛小学校	29	II	
	大土川	9	小田東小学校裏	広島県安芸高田市甲田町高田原	9月12日	安芸高田市立小田東小学校	12	II	
	小似川	10	原田橋下流	広島県三次市青河町	7月2日	三次市立青河小学校	5	I	
	江の川	11	祝橋下流	広島県三次市栗屋町	9月6日	三次市立三次小学校	48	II	
太田川	太田川	1	柴木川下流	広島県山県郡安芸太田町吉和郷(JR可部線 戸河内駅 上流)	7月19日	安芸太田町立戸河内中学校	18	I	太田川河川事務所
	太田川	2	新轟橋	広島県山県郡安芸太田町上殿(中国縦貫道 戸河内I.C付近)	7月18日	安芸太田町立殿賀小学校 安芸太田町立上殿小学校	7	I	
	太田川	3	加計	広島県山県郡安芸太田町加計見入ヶ崎(丁川合流点 下流付近)	9月21日	広島県立加計高等学校	40	II	
	太田川	4	高山川下流	広島市安佐北区安佐町小河内神原(JR可部線 小河内駅 上流 高山川合流点付近)	8月9日	直営	-	I	
	太田川	5	壬辰橋	広島県安佐北区安佐町毛木沖田(JR可部線 毛木駅付近)	8月7日	広島市立清和中学校	19	I	
	太田川	6	太田川橋	広島県安佐南区佐東町八木細野土手外(国道54号太田川橋上流右岸)	8月1日	広島県立可部高等学校	20	I	
	太田川	7	安佐大橋	広島県安佐南区川内4丁目(安佐大橋上流 左岸)	9月4日	広島県立紙園北高等学校	18	II	
	根谷川	8	新川橋	広島市安佐北区中島(可部発電所 上流)	8月1日	広島市立清和中学校	19	I	
	三篠川	9	深川橋	広島県安佐北区深川2丁目(深川橋 下流)	7月23日	直営	-	II	
	古川	10	第一古川	広島県安佐南区緑井6丁目(第二古川との合流点 上流)	8月30日	直営	-	II	
	古川	11	第二古川	広島県安佐南区緑井6丁目(第一古川との合流点 上流)	8月30日	直営	-	II	
	古川	12	大下	広島県安佐南区緑井1丁目(山陽自動車道横過地点 直下流)	8月2日	広島市立東原中学校	19	II	
	古川	13	神田橋	広島県安佐南区中筋1丁目(安川との合流点付近)	8月2日		19	II	
	古川	14	松原橋	広島県安佐南区中筋1丁目(松原橋 上流)	8月2日		19	I	
小瀬川	小瀬川	1	小川津	山口県岩国市小川津(JR山陽新幹線橋梁上流、小川津下流)	9月7日	大竹市立徳仁原小学校	8	I	
	小瀬川		小川津	山口県岩国市小川津(JR山陽新幹線橋梁上流、小川津下流)	8月3日	大竹理科部会	8		
	小瀬川	2	御堂原	広島県大竹市徳仁原(乙瀬橋付近)	9月7日	大竹市立徳仁原小学校	8	I	
	小瀬川	3	両国橋	広島県大竹市木野(両国橋 下流)	9月7日		8	I	
芦田川	芦田川	1	大井手頭首工	府中市久佐町地先	8月21日	福山市立中央中学校 福岡大学	4	II	福山河川国道事務所
	芦田川	2	府中新橋	府中市土生町地先	8月10日	めだかの学校	25	II	
	芦田川	3	山手橋	福山市山手町地先	8月4日	盈進中学高等学校	17	II	
	高屋川	4	白鷺橋	福山市神辺町川南地先	9月5日	直営	-	III	
32 地点			小学校 14 校 中学校 4 校 高校 4 校 大学 1 校 一般 2 団体 計 25 団体				407人 117人 95人 1人 33人 653人	I (12) 38% II (19) 59% III (1) 3% IV (0) 0%	

表一 3 水生生物による水質の簡易調査「平成24年度実施結果」(山口県)

(水質階級 I:きれいな水 II:ややきれいな水(少しきたない水) III:きたない水 IV:とてもきたない水(大変きたない水))

水系名	河川名	地点番号	調査地点名	調査地点地先名	調査月日	調査団体名等	参加人数	H24判定水質階級	備考
佐波川	佐波川	1	堀	山口市徳地堀(出雲合橋上流右岸)	7月26日	直営	—	I	山口河川国道事務所
	佐波川	2	漆尾	山口市徳地伊賀地(尾蔵堰下流右岸)	7月26日	直営	—	I	
	佐波川	3	小野水辺の薬校	防府市奈美	8月23日	小野水辺の薬校空間利用を考える会	32	I	
	佐波川	4	新橋	防府市上右田	7月25日	防府市立右田中学校 " 桑山中学校 " 国府中学校	50	I	
	佐波川		新橋	防府市上右田	7月27日	佐波川に学ぶ会	40		
	佐波川		新橋	防府市上右田	9月28日	防府市立華城小学校5年生	136		
	佐波川		新橋	防府市上右田	10月7日	防府市青少年科学館ソラール	25		
			4 地点	小学校 1 校			136人	I (4) 100%	
				中学校 3 校			50人		
				高校 0 校			0人		II (0) 0%
				大学 0 校			0人		III (0) 0%
				一般 3 団体			97人		IV (0) 0%
				計 7 団体			283人		

Table with columns for water body name (水系名), river name (河川名), survey location name (調査地点名), survey date (調査日), survey group (調査団体等), and a grid of observation results for various water quality indicators. The grid uses symbols like ● and ○ to denote observation frequency.

(環境省同時発表)

平成 25 年 6 月 1 1 日(火)
水管理・国土保全局河川環境課

平成 24 年度全国水生生物調査の結果及び 平成 25 年度の調査の実施について（お知らせ）

- 水生生物を指標として河川の水質を総合的に評価するため、また環境問題への関心を高めるため、環境省と国土交通省では、一般市民等の参加を得て全国水生生物調査を実施しています。
- 平成 24 年度の全国水生生物調査は約 62,000 人の参加を得て行われ、夏休み期間を中心として、多くの学校（小中学校等：約 40,000 人）や、市民団体等（市民団体・子供会・観察会等：約 19,000 人）から参加が得られました。平成 23 年度は東日本大震災の影響による参加者の減少が見られましたが、平成 24 年度は被災地を含め参加者が増加しました。
- 全国の調査地点 2,432 地点のうち、全体の 59%の地点でサワガニやカワゲラ類等の指標生物の生息が確認され、「きれいな水」と判定されました。
- 本年度も調査を実施しますので、是非御参加下さい。

国土交通省 水管理・国土保全局 河川環境課

課長補佐 三宅 洋（内線 35-443）

係 長 大嶋 恭子（内線 35-482）

TEL 03-5253-8111（代表）、03-5253-8447（直通）

FAX 03-5253-1603

環境省 水・大気環境局 水環境課

課 長 宮崎 正信（内線 6610）

課長補佐 佐藤 克子（内線 6612）

担 当 山本・照井（内線 6622）

TEL 03-3581-3351（代表）、03-5521-8314（直通）

FAX 03-3593-1438

1. 全国水生生物調査とは

河川に生息するサワガニ、カワゲラ類等の水生生物の生息状況は、水質汚濁の影響を反映することから、それらの水生生物を指標として水質を判定することができます。このような調査は、一般の人にもわかりやすく、高価な機材等を要しないことから誰でも簡単に参加できるという利点があります。また、調査を通じて身近な自然に接することにより、環境問題への関心を高める良い機会となるため、環境省と国土交通省では、昭和59年度から全国水生生物調査を実施しています。

2. 平成24年度調査結果の概要

(1) 調査方法

本調査では、河川に生息する水生生物のうち、[1]全国各地に広く分布し、[2]分類が容易で、[3]水質に係る指標性が高い、29種を指標生物としました。

河川で水生生物を採集し指標生物の同定・分類を行い、地点ごとに、Ⅰ(きれいな水)、Ⅱ(ややきれいな水)、Ⅲ(きたない水)、Ⅳ(とてもきたない水)の4階級で水質の状況を判定しました。

(2) 調査結果

○参加者数

平成24年度の参加者は61,818人(前年度55,772人)でした。平成23年度は東日本大震災の影響による参加者の減少が見られましたが、平成24年度は参加者が増加しました。

	参加者数	参加団体数	調査地点数
合計	61,818人	1,587団体	2,432地点
一級河川※1	15,621人	437団体	505地点
その他の河川※2	46,197人	1,150団体	1,927地点

※1：一級河川大臣管理区間 ※2：一級河川都道府県管理区間及び二級河川等(※1以外)

○水質判定結果

平成24年度は、全調査地点の59%の地点で「きれいな水」と判定され、前年度(55%)と同様の状況でした。

	合計	一級河川	その他の河川
Ⅰ きれいな水	59%	66%	58%
Ⅱ ややきれいな水	28%	29%	28%
Ⅲ きたない水	7%	4%	8%
Ⅳ とてもきたない水	3%	0%	4%
判定不能	2%	1%	3%

※四捨五入による端数処理のため内数の合計が100%にならないことがあります。

3. 平成25年度調査の実施について

平成25年度も、平成24年度に引き続き、全国水生生物調査を実施します。

また、平成23年度に、川の水のよごれ（水質ランク）をより判別しやすくすることを目的として、指標生物の見直しを行いました。平成24年度は更新期間のため、下表の旧、更新のいずれかの指標生物で調査を行いました。平成25年度より、更新の指標生物にて調査します。

※「ややきれいな水」、「とてもきたない水」はそれぞれ旧指標における「少しきたない水」、「大変きたない水」です。

（参考）水質階級と指標生物

水域	川の水のよごれ (水質ランク)	旧	更新	
淡水域	きれいな水(Ⅰ)	1 ナミウズムシ	1 ナミウズムシ	
		2 サワガニ	2 サワガニ	
		3 ヒラタカゲロウ類	3 ヒラタカゲロウ類	
		4 カワゲラ類	4 カワゲラ類	
		5 ヘビトンボ	5 ヘビトンボ	
		6 ナガレトビケラ類	6 ナガレトビケラ類	
		7 ヤマトビケラ類	7 ヤマトビケラ類	
		8 ブユ類	8 ブユ類	
		9 アミカ類	9 アミカ類	
			10 ヨコエビ類	
	きれいな水(Ⅰ)～ ややきれいな水(Ⅱ) (指標としない)			1 ヒゲナガカワトビケラ類
				2 ニンギョウトビケラ類
				3 タニガワカゲロウ類
				4 チラカゲロウ
	ややきれいな水(Ⅱ)	1 カワニナ類	1 カワニナ類	
		2 スジエビ		
		3 コオニヤンマ	2 コオニヤンマ	
		4 コガタシマトビケラ類	3 コガタシマトビケラ類	
		5 オオシマトビケラ	4 オオシマトビケラ	
		6 ヒラタドロムシ類	5 ヒラタドロムシ類	
7 ゲンジボタル		6 ゲンジボタル		
きたない水(Ⅲ)	1 タニシ類	1 タニシ類		
	2 シマイシビル	2 シマイシビル		
	3 ミズムシ	3 ミズムシ		
	4 タイコウチ			
	5 ミズカマキリ	4 ミズカマキリ		
とてもきたない水(Ⅳ)	1 サカマキガイ	1 サカマキガイ		
	2 エラミミズ	2 エラミミズ		
	3 アメリカザリガニ	3 アメリカザリガニ		
	4 ユスリカ類	4 ユスリカ類		
	5 チョウバエ類	5 チョウバエ類		
汽水域	ややきれいな水(Ⅱ)	1 ヤマトシジミ	1 ヤマトシジミ	
		2 イシマキガイ	2 イシマキガイ	
	きたない水(Ⅲ)	1 イソコツブムシ類	1 イソコツブムシ類	
		2 ニホンドロソコエビ	2 ニホンドロソコエビ	

（お問い合わせ先）

- 各都道府県の環境部局

https://www2.env.go.jp/water-pub/mizu-site/mizu/suisei/etsuran/list_pref.html

- 各地方整備局等の窓口（一級河川直轄管理区間）

http://www.mlit.go.jp/river/toukei_chousa/kankyo/kankyou/suisitu/toiawase.html

平成24年度全国水生生物調査結果

1. 参加人数及び参加団体数

平成24年度の参加人数は61,818人であった。

うち、一級河川^{※1}は15,621人であり、その他の河川^{※2}は46,197人であった。また、参加団体数は1,587団体で、うち一級河川は437団体であった。

参加団体別の参加人数は小学校での参加が最も多く、次いで各種団体、観察会の順番であった。

都道府県別の参加者数では愛知県が最も多く、次いで岐阜県、岩手県の順番であった。なお、一級河川では北海道が最も多く、1,569人であった。

※1 一級河川大臣管理区間（以下「一級河川」と言う）

※2 一級河川都道府県管理区間及び二級河川等※1以外の河川（以下「その他の河川」と言う）

参加者数の多い都道府県

順位	都道府県名	参加人数	うち一級河川
1	愛知	6,192	1,284
2	岐阜	5,851	134
3	岩手	5,475	152
4	静岡	3,494	544
5	三重	3,148	882

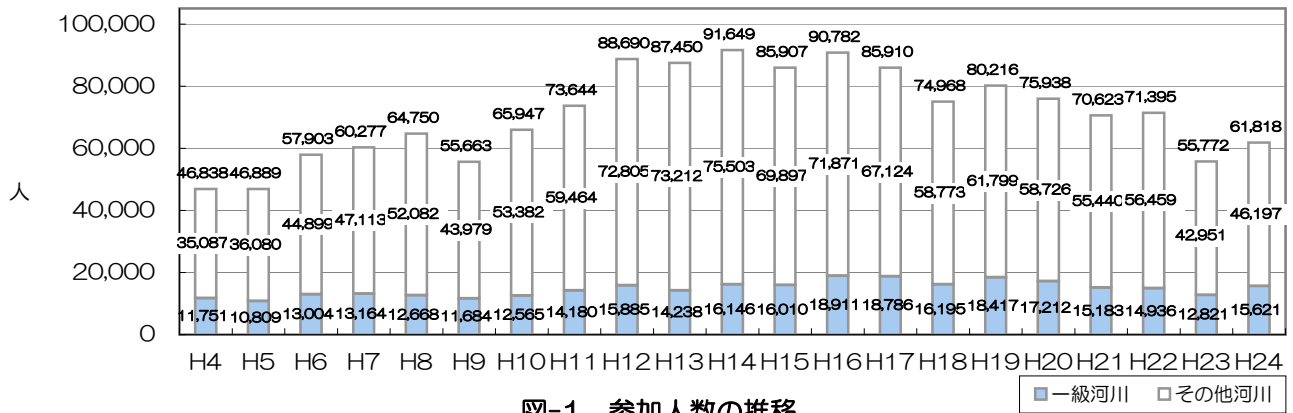


図-1 参加人数の推移

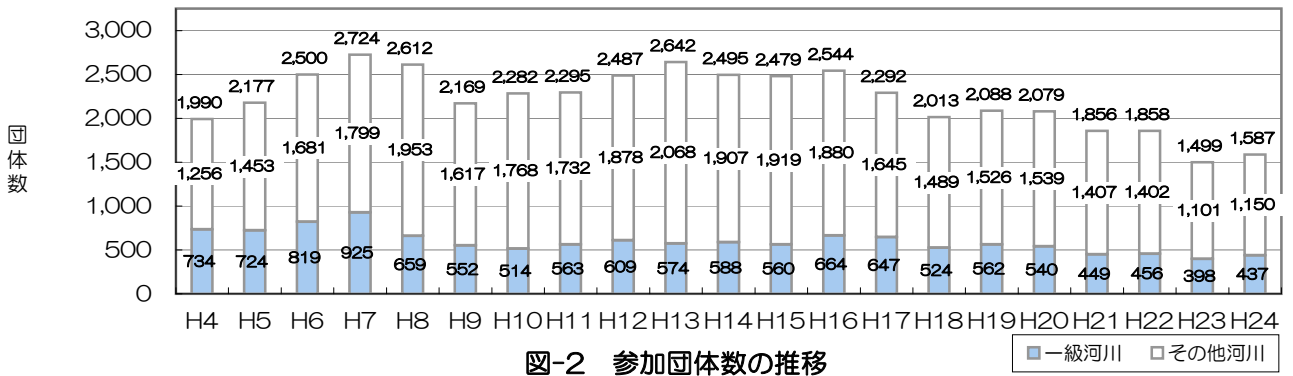
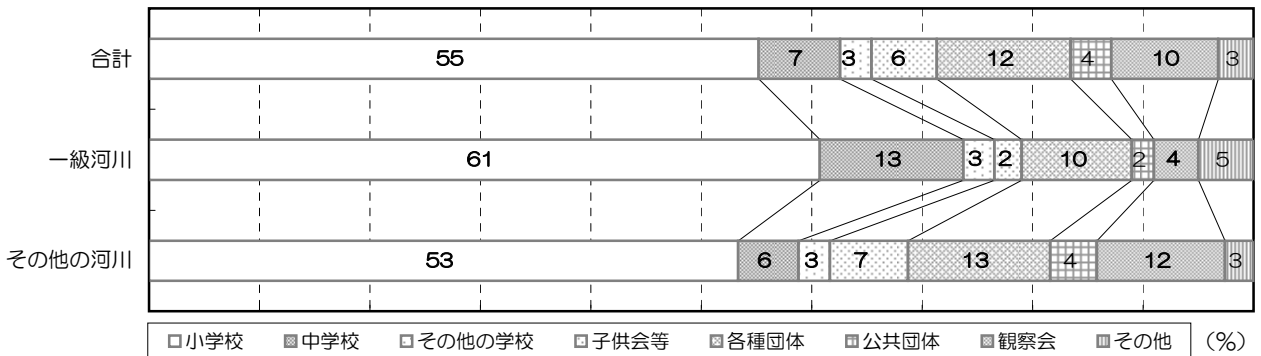


図-2 参加団体数の推移



※四捨五入による端数処理のため内数の合計が100%にならないことがある。

図-3 参加人数の団体種類別構成比

2. 調査地点数

調査地点数は2,432地点であった。

内訳は、一級河川は505地点、その他の河川は1,927地点であった。

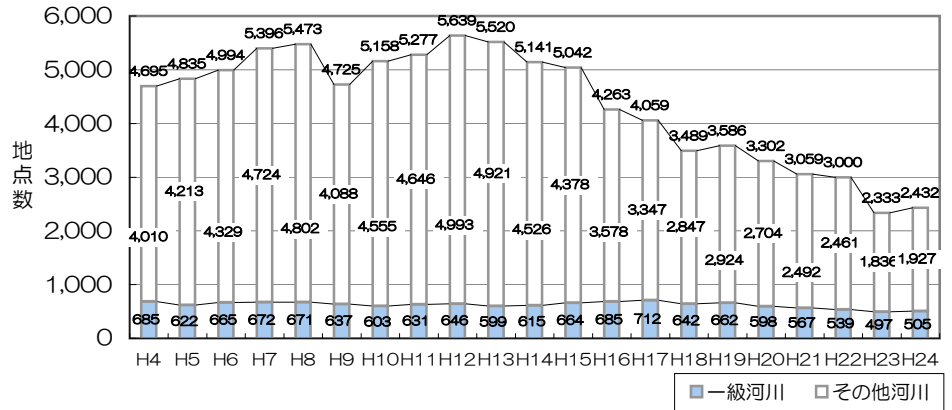


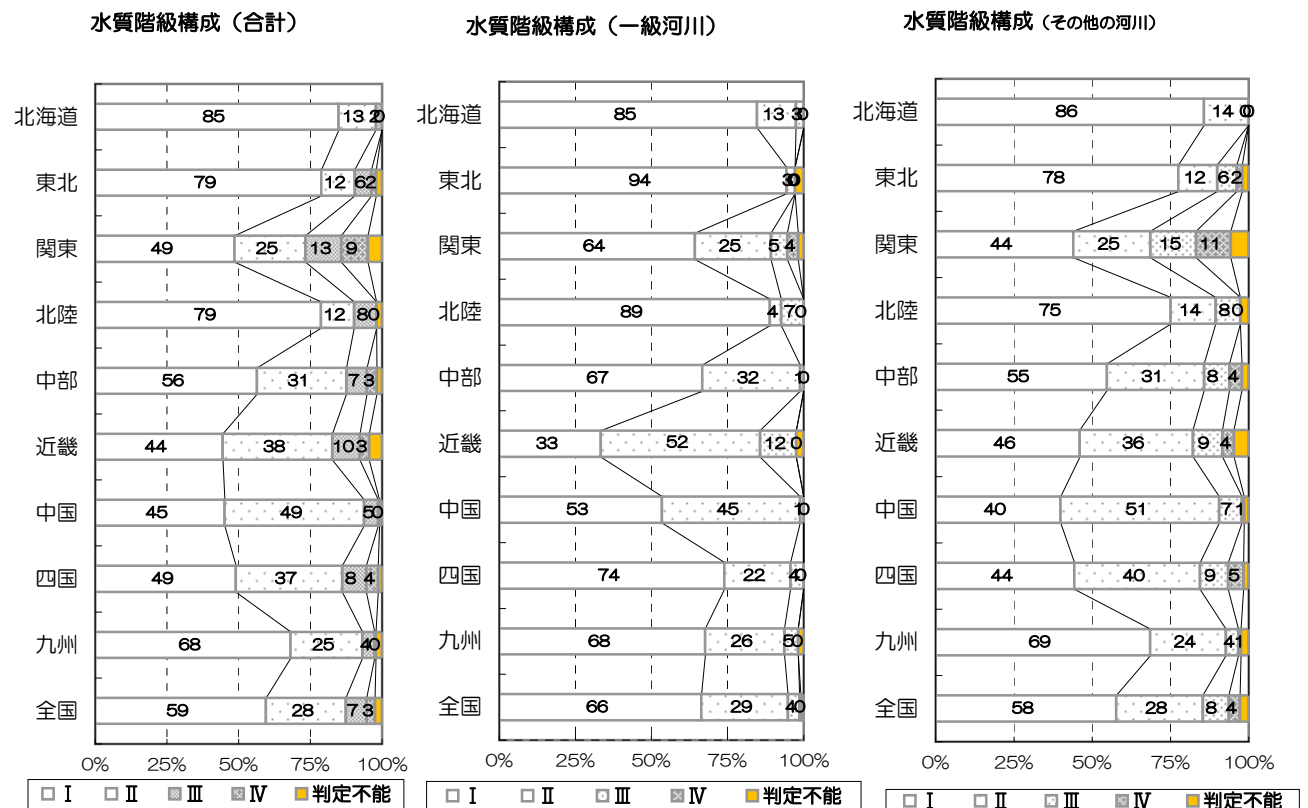
図-4 調査地点数の推移

3. 地域別水質階級構成（地域別の水質の状況）

本調査は、調査地点を参加者が任意に選定するため、我が国の河川の状況を正確に代表したものではない。しかし、多数の地点で調査されているため、全国の水質の状況を概括的に知ることができると考えられる。

平成24年度は、全国で水質階級Ⅰ（きれいな水）と判定された地点が59%、Ⅱ（ややきれいな水）が28%、Ⅲ（きたない水）が7%、Ⅳ（とてもきたない水）が3%であった。

Ⅰ（きれいな水）の割合で見ると近畿、中国、中国、関東地方は50%以下であったが、北海道は80%以上の高い値であった。各地方の一級河川とその他の河川のⅠ（きれいな水）の構成比は全般に似通った値であるが、近畿地方はその他の河川の方がⅠ（きれいな水）の構成比が高く、東北、関東、北陸、中部、中国、四国地方等では逆に一級河川の方が高いなど地域による差も生じている。

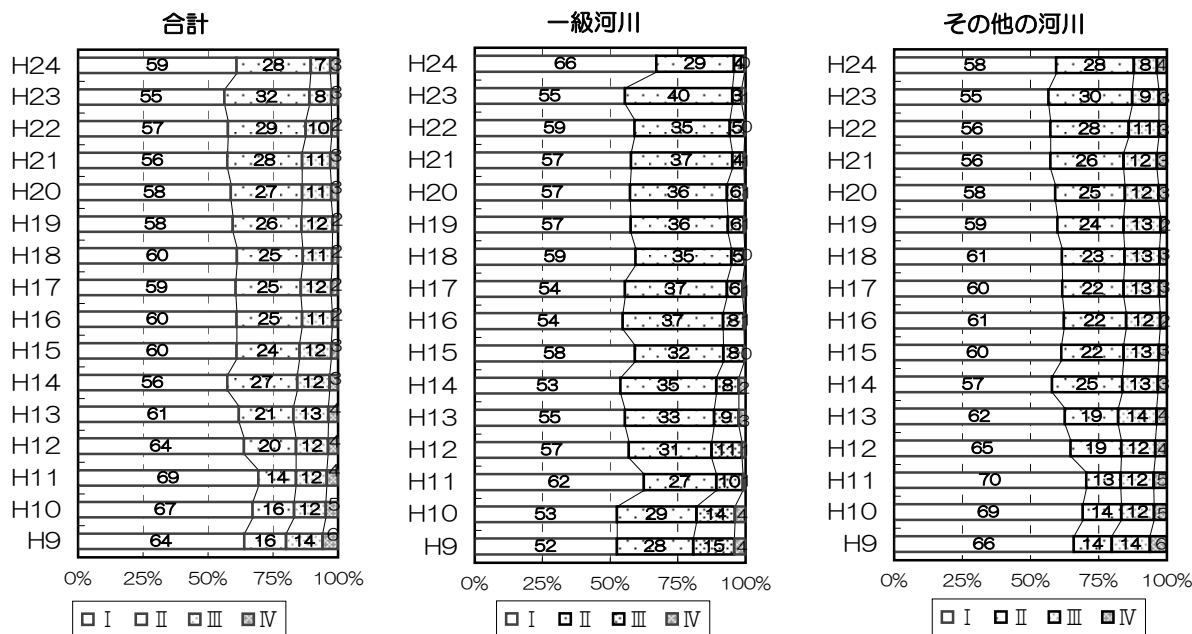


※判定不能の数値ラベルは図中に表示していない。
四捨五入による端数処理のため内数の合計が100%にならないことがある。

図-5 地域別水質階級構成比

4. 水質階級構成比の年次推移

全国の全調査地点の水質階級構成比を図6に示した。
 平成11年度をピークに、I（きれいな水）と判定された地点の割合は減少傾向にあったが、平成14年度以降は55～60%前後でほぼ横這いとなっている。本年度は、I（きれいな水）と判定された地点の割合が昨年に比べ増加し、4ポイント高い59%となった。
 なお、年次ごとの調査地点については相違しており、必ずしも同地点を比較したものではない。

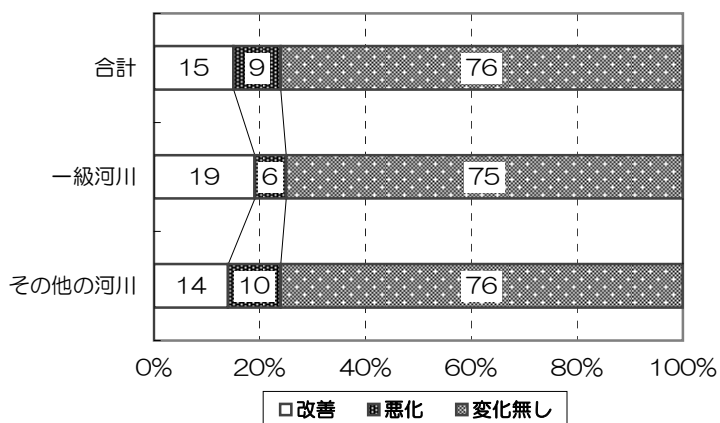


※1 判定不能地点の扱い及び四捨五入による端数処理のため内数の合計が100%にならないことがある。
 ※2平成12年度から調査手法を変更しているため、平成12年度と平成11年度以前との厳密な比較はできない。

図-6 水質階級構成比の年次推移

5. 前年度（H23）との比較

前年度と同じ地点で調査された1,155地点について比較すると、15%の地点が改善、9%の地点が悪化、76%の地点が同じ水質階級であった。



※四捨五入による端数処理のため内数の合計が100%にならないことがある。

図-7 同一調査地点での昨年度との比較

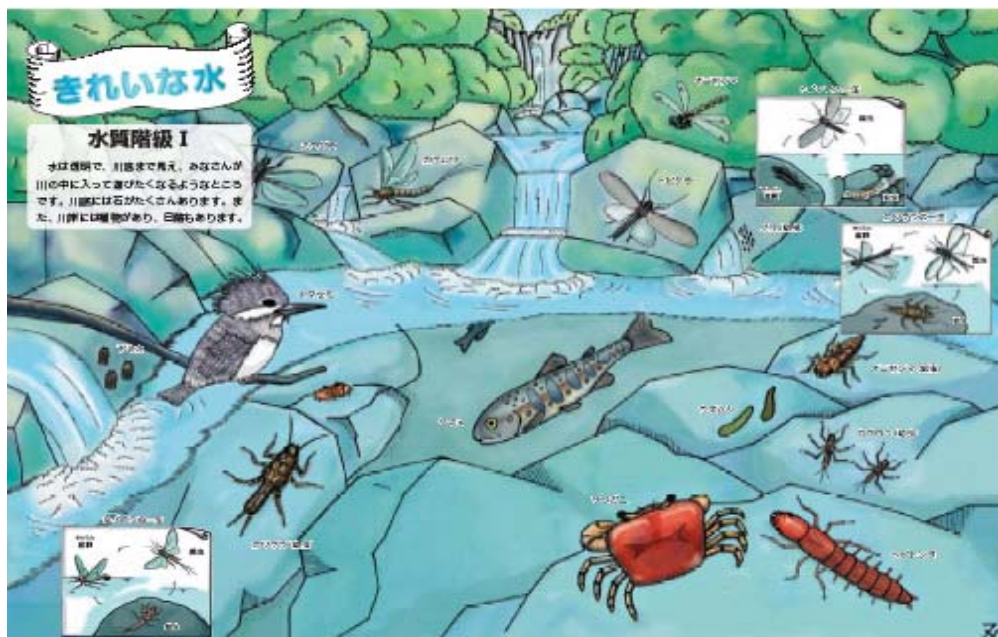
全国水生生物調査の概要

【参考1】

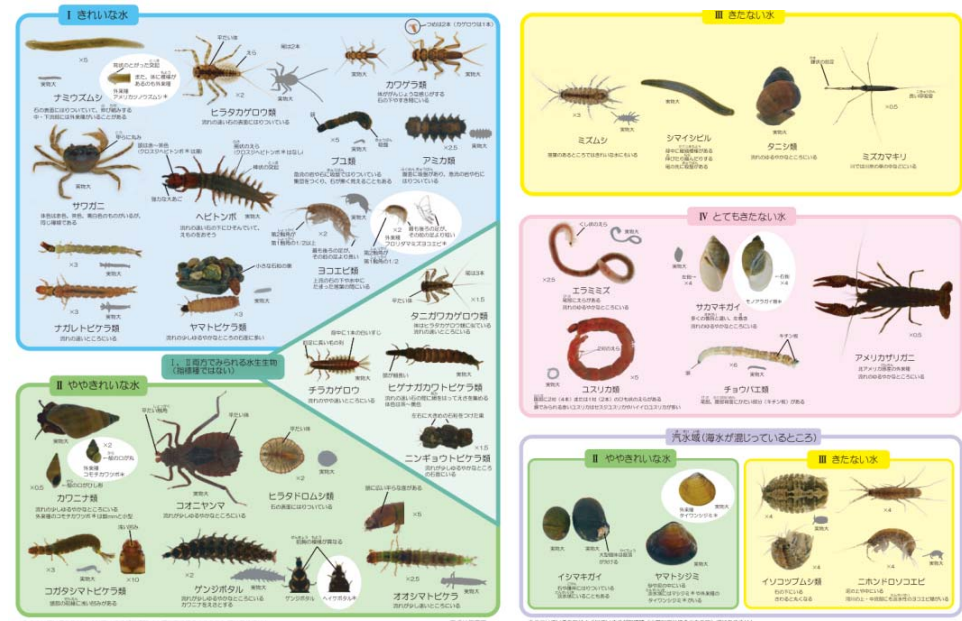
川の中には様々な生きものが住んでいます。特に川底に住んでいる生きものは、過去から調査時点までの長い時間の水質の状況を反映したものであり、どのような生きものが住んでいるかを調べることで、その地点の水質の程度を知ることができます。この調査は、適切な指導のもと、小学生、中学生、高校生、一般の人々のだれもが簡単にできるようになっています。

調査方法

本調査では、河川に生息する水生生物のうち、①全国各地に広く分布し、②分類が容易で、③水質に係る指標性が高い、30種を指標生物としています。河川で水生生物を採集し指標生物の同定・分類を行い、地点毎に、I (きれいな水)、II (ややきれいな水)、III (きたない水)、IV (とてもきたない水)の4階級で水質の状況を判定しています。



水質階級と指標生物



きれいな水 (I) の指標生物		ややきれいな水 (II) の指標生物	
ナミウズムシ	サワガニ	カワニナ類	コオニヤンマ
ヒラタカゲロウ類	カワゲラ類	コガタシマトビケラ類	オオシマトビケラ
ヘビトンボ	ナガレトビケラ類	ヒラタドロムシ類	ゲンジボタル
ヤマトビケラ類	ブユ類	○ ヤマトシジミ	○ イシマキガイ
アミカ類	ヨコエビ類		
きたない水 (III) の指標生物		とてもきたない水 (IV) の指標生物	
タニシ類	シマイシビル	サカマキガイ	エラミミズ
ミズムシ	ミズカマキリ	アメリカザリガニ	ユスリカ類
○ ニホンドロソコエビ	○ イソコツブムシ類	チョウバエ類	
I, II両方で見られる水生生物 (指標生物ではない)			
ヒゲナガカワトビケラ類	ニンギョウトビケラ類		
タニガワカゲロウ類	チラカゲロウ		

注) ○は海水の少し混ざっている汽水域の生物

平成24年度 全国水生生物調査(一級河川)の状況

【参考2】

平成24年度一級河川の全国水生生物調査では、夏休み期間を中心に、小中学校や市民団体等437団体、15,621人の多数の参加を頂き、505箇所の調査地点数となりました。参加者数の多い都道府県は、北海道、愛知県、兵庫県等でした。



石狩川水系豊平川(H24.7.23)



利根川水系神流川(H24.7.27)



山国川水系跡田川(H24.9.14)

